



伝えたい言葉

本気ですれば大抵のことはできる。本気ですれば何でもおもしろい。本気ですれば誰か助けてくれる。 長嶋 茂雄

令和7年9月26日発行

九州合唱コンクールでも健闘

13日に大分県大分市のiichikoグランシアタで開催された第80回九州合唱コンクールにおいて、本校の合唱部が混声の部で**金賞（大分市教育長賞）**を受賞し、全国大会への推薦をいただきました。

10月26日に富山市で開催される第78回全日本合唱コンクール全国大会に出場します。

前号でお伝えしたNコン、今回の全日本ともに、全国大会においては、九州大会よりもさらに高いレベルの演奏で勝負することになります。

その際に大切なことは何でしょうか。

以前、附属学校園の会議のレセプションにおいて、福岡県にある高等学校吹奏楽部の演奏を聞いたことがあります。毎年、吹奏楽やマーチングの全国大会に出場し、**金賞を取り続けるような学校**ですので、どんな気持ちで、どんな姿勢で練習に打ち込んでいるのか、とても興味をもち、ホームページ等で調べてみました。そこでわかったことが2点あります。



その1 TEAMのビジョンが明確であること

「明るく。楽しく。元気よく。今できる最高の演技・演奏を!」というモットーを大切にしながら、継続して活動していることを知りました。

音楽を楽しむことを根幹にして、日常生活の基盤とも言える「気持ちのよい挨拶」をしたり「仲間と上手なコミュニケーション」をとったりすることをととても重視しているようでした。**「今できるよいこととは何か」**を自分に問い、考えて主体的に行動することは大切だと感じています。

その2 集団の一員としての自覚が明確であること

部員一人一人に必ず何かの**役割**が割り当てられており、150名をこえる部員が、どこかでみんなを支えていることを知りました。

「絆」や「和」という言葉をよく耳にしますが、それは、強いられてできるものではなく、**自分の所属する集団を真剣に大切に思う気持ち**が根っこにないと叶うものではないと感じています。

現在のメンバーでの挑戦は、全国大会が最後になります。全国大会を目指して頑張ってきた県内や九州の数ある学校の合唱部員を**リスペクト**し、自覚をもって努力してくださいね。

教育実習終了 学びと粘りの3週間



実習の途中で、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザA型、発熱、腹痛、のどの痛みなどの症状で、欠席も見られましたが、12日に教育実習が終わりました。

教育実習生は、附属中学校の生徒と関わる中で、専門教科の指導や学級経営、生徒指導について直に学ぶことができ、とても充実していたと語ってくれました。

最終日の帰りの会においては、学級の生徒からのサプライズもあり、実習生はそれぞれの学級で3週間の日々を振り返り、満足な様子に見えました。

生徒の皆さんは、実習生に対して、とても積極的に関わってくれました。その反面、**全体的に少し緩んだ雰囲気**も見られますので、気持ちの切り替えをしましょう。

福島は今 宮崎県内初の震災授業

9月19日、第3学年の生徒を対象に「**福島は今**」というテーマで復興庁の出前授業を開催しました。

令和7年度は全国12県15校の中学校・高等学校で開催され、本校は、そのトップバッターということでした。

復興庁の本事業に応募した私の思いについては、出前授業の冒頭で話をしました。

2011年3月11日 午後2時46分東日本大震災が起こりました。

3年生の皆さんは、その年度に生まれていますので、成長した後に映像を見たことがある人は多いと思いますが、**そのリアル**を知りません。

当時の私は、附属中学校から転勤し、延岡市にある北部教育事務所の職員として仕事をしていました。東北地方でまさに今起きている、今まで見たこともないテレビの映像に震えながら、所長の指示の下、各学校の児童・生徒の安全を確保できるように、県北地区の市町村教育委員会との情報のやり取りに遅くまで追われたことを思い出します。

災害などについての知識を得る術は、多様な情報が溢れる社会の中に生きる附属中学校の皆さんにとっては難しいことではないかもしれません。

しかし、**そのことを身近に、自分事として感じる、考えるためには、実際に被災地に関わり、東日本復興の指揮をとられる方に話をいただくことが有益**だと考えました。

講師は、本校の卒業生であり、復興庁の事務次官をされている山野謙さんに務めていただきました。

まず「福島の復興」をテーマに話をされました。東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、農作物などに大きな風評被害が出たこと、現在では、放射性物質の量が基準値を超えるケースはほとんどないこと、震災から14年余りがたった今も帰還することが困難な区域があり、多くの人が避難を余儀なくされていること、海外を含む多くの支援があったからこそ、東北地方の震災復興が確実に進んだことなどを、科学的なデータ等を用いてわかりやすく伝えてくださいました。

次に、3年生は、3～4人で「災害時に自分たちができること」についてグループワークを行いました。グループワークにおいては、山野さん、日本科学技術振興財団の職員の方、学級担任が話し合いの様子を見ながら、必要に応じて質問に答えるなどのサポートをし、自分事として考えを深める姿が見られました。

最後に、各グループの考えを全体で共有しました。

グループワークの意見は、講演を踏まえて、とてもよく考えられたものばかりでした。

例えば、Aさんは、日常生活の中で回覧板を隣家に届ける役割を通して気付いた「自治会への加入戸数が減っている」という課題を挙げ、「いざというときに『共助』をするためには自治会の機能を強くするしくみをつくっていく必要があるのではないか。」と語ってくれました。

山野さんからは、「行政の職員にも聞かせたいと思うような意見が多く、**自分事**としてよく考えてくれた。今回学んだことを、**家族で話す時間**もぜひ作ってほしい。」と講評されました。

当日は、複数の新聞社やテレビ局の取材もありました。

ニュース動画を見ることができます。ぜひご覧ください。



グループワークで山野さん対話する生徒

【NHK】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/miyazaki/20250919/5060022155.html>

【UMK】

<https://www.umk.co.jp/news/?date=20250919&id=29744>